

(1) トマト・ミニトマト

ア 各病害虫の防除

萎凋病(レース 1、レース 2)、根腐萎凋病

うどんこ病

疫病

褐色根腐病

すすかび病

苗立枯病

灰色かび病

葉かび病

斑点病

輪紋病

青枯病

かいよう病

斑点細菌病

黄化えそ病

黄化葉巻病(TYLCV) 黄化病(ToCV)

モザイク病(CMV)

モザイク病(ToMV)

アブラムシ類

オオタバコガ

コナジラミ類

ハスモンヨトウ

ハモグリバエ類

ミカンキイロアザミウマ

トマトサビダニ

ネコブセンチュウ類

イ トマトの品種と病害抵抗性の関係

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

トマトの前作においてリゾレックス剤、トクチオン剤を使用すると後作のトマト果実に異臭が発生する可能性があるの
で前作ではこれらの薬剤を使用しない。

また、これらの薬剤を使用してからトマトの作付けまでの安全期間については明らかでないが、半年間以上空けることが
望ましい。

萎凋病(レース 1、レース 2)、根腐萎凋病

(耕種的・物理的防除)

- 1 抵抗性品種を作付ける(本項[トマトの品種と病害抵抗性の関係](#)を参照)。
- 2 抵抗性台木に接木する(本項[トマトの品種と病害抵抗性の関係](#)トマトの品種と病害抵抗性の関係を参照)。
- 3 床土は水田、山林などからとった新しい土と取り替える。
- 4 発病ほ場は3～4年輪作するか土壌消毒([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)をしてから作付けす
る。
- 5 病床や本ぼに消石灰を施用し、適正 pH(6.0～6.5)になるようにする。クロルピクリンくん蒸剤消毒の場合は注入後 10
日以上経過してから施用する。
- 6 定植のとき苗をよく調べ、病苗は処分する。定植後に発病したらすぐ抜き取り、処分する。

(薬剤防除) 農薬登録情報【[トマト](#)】・【[ミニトマト](#)】

- 1 萎凋病を対象に種子を薬剤に浸漬する。【トマト】
- 2 萎凋病の発病のおそれのあるときは薬剤をかん注する。【トマト・ミニトマト】

うどんこ病

(予防に関する措置)

- 1 風通しを良くするため、密植及び過繁茂を避ける。
- 2 乾燥条件下で多発しやすいことから、施設栽培では乾燥を避ける。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発病茎葉は伝染源となることから、発病部位を速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。
- 2 微生物殺菌剤を活用した防除を行う。
- 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤防除を実施する。
- 4 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 5 薬剤散布を行う場合には、薬液は葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。

(薬剤防除) 農薬登録情報【[トマト](#)】・【[ミニトマト](#)】

- 1 微生物殺菌剤は予防的に散布する。
- ※微生物殺菌剤の施用と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、影響の少ない農薬を選択する。
- 2 発病が予想される場合には、薬剤を散布する。
 - 3 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法の項](#)を参照する。

疫病

(予防に関する措置)

- 1 ほ場の排水を良好に保つ。
- 2 多湿条件下で発生しやすいことから、施設栽培では、暖房、送風、換気等により、施設内の湿度を低く保つ。
- 3 風通しを良くするために、密植を避ける。
- 4 曇雨天が続いた時に発病しやすい。
- 5 雨よけ栽培を行う。
- 6 連作を避け、なす科以外の作物との輪作を実施する。
- 7 敷わら又はマルチの敷設により、土が跳ね上がらないようにする。
- 8 窒素過多を避ける。

9 トマト跡や周囲に疫病菌の寄生物(トマト、じゃがいも)のある所で育苗しない。

※特にじゃがいも畑の近くや跡地を避ける。

10 土壌消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発病茎葉は伝染源となることから、発病葉及び発病果を速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
- 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤防除を実施する。
- 4 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 3 薬剤散布を行う場合には、薬液は葉裏にも付着するよう、丁寧に散布する。
- 4 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】](#)

- 1 発病が予想される場合には、薬剤を散布する。

褐色根腐病

(耕種的・物理的防除)

- 1 被害の出るおそれのある所では越冬栽培を避け、きゅうりやメロンと輪作する。
- 2 抵抗性台木に接木する(本項トマトの品種と病害抵抗性の関係を参照)。
- 3 栽培中の夜温を10℃以上で管理する。
- 4 土壌還元消毒を行う([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 5 夏期ハウス密閉による太陽熱消毒を行う([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

すすかび病

(予防に関する措置)

- 1 風通しを良くするために、密植及び過繁茂を避ける。
- 2 多湿条件下で発生しやすいことから、施設栽培では、換気やかん水量に注意する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発病葉は伝染源となることから、発病部位を速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤防除を実施する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 薬剤散布を行う場合には、薬液は葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。
- 5 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】](#)

- 1 微生物殺菌剤は予防的に散布する。

※微生物殺菌剤の施用と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

- 2 発病初期から、薬剤を散布する。

苗立枯病

(薬剤防除) [農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】](#)

- 1 苗床の土壌を消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 ピシウム・リゾクトニア属への適用を確認し、薬剤を使用する。

灰色かび病

(予防に関する措置)

- 1 多湿条件下で発生しやすいことから、施設栽培では、暖房、送風、換気等により、施設内の湿度を低く保つ。
- 2 風通しを良くするために、密植を避ける。
- 3 過繁茂にならないよう、適正な施肥管理を行う。
- 4 施設栽培においては、防曇・防滴フィルム、紫外線除去フィルムを活用する。

※紫外線除去フィルムはトマト灰色かび病菌の孢子形成抑制効果がある。

- 5 マルチの敷設により、地表面からの本指定有害植物の伝染を防止する。
- 6 幼果に残った花弁又は病斑部をできるだけ取り除き、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 微生物殺菌剤を活用した防除を行う。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による発病株の早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、施設栽培では、曇雨天が続いて薬液が乾きにくい場合には、くん煙剤の使用も有効である。
- 4 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。さらに、地域内で薬剤耐性が確認されている薬剤を当該地域では使用しない。

薬剤防除 **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 微生物殺菌剤は予防的に散布する。

※微生物殺菌剤の施用と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、影響の少ない農薬を選択する。

- 2 発病が予想されたら、薬剤を散布する。
- 3 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方法の項](#)を参照する。

葉かび病

(予防に関する措置)

- 1 抵抗性品種を使用する。(本項[トマトの品種と病害抵抗性の関係](#)を参照)。
- 2 種子消毒を行う。
- 3 多湿条件下で発生しやすいことから、施設栽培では、暖房、送風、換気等により、施設内の湿度を低く保つ。
- 4 風通しを良くするために、密植を避ける。
- 5 窒素過多及び肥料切れを避ける。
- 6 過度のかん水及び密植を避ける。
- 7 マルチ内へのかん水の実施や、通路にもみ殻を敷く。
- 8 発生ほ場で使用した農業用資材の消毒を行う([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 9 トンネル、ハウス栽培に多く発病する。
- 10 下葉から発生しやすい。

(判断、防除に関する措置)

- 1 微生物殺菌剤を活用した防除を行う。
- 2 発病茎葉は本指定有害植物の伝染源となることから、速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。
- 3 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、適期に薬剤散布等を実施する。

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 微生物殺菌剤は予防的に散布する。

※微生物殺菌剤の施用と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、影響の少ない農薬を選択する。

- 2 発病初期から、薬剤のいずれかを7～8日おきに散布(又はくん煙)する。
- 3 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方法の項](#)を参照する。

斑点病

(耕種的・物理的防除)

- 1 窒素過多を避け、かつ肥料切れにならないようにする。
- 2 換気を良くして多湿にならないようにする。

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 発病が予想される場合には、薬剤を散布する。

輪紋病

(耕種的・物理的防除)

- 1 適度のかん水を行う。

- 2 肥料切れにならないようにする。

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 発病初期から、薬剤を7～10日おきに散布する。

青枯病

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病ほ場には5～6年以上、なす、トマトなどを作付けしない。
- 2 太陽熱土壌消毒により病原菌の減少を図る([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 3 基肥を減肥するか、コーティング肥料を使用するなどして植物体の抵抗性を弱めないようにする。
- 4 抵抗性台木に接木する(本項トマトの品種と病害抵抗性の関係を参照)。
- 5 土壌中の病原菌増殖を抑制するため、かん水は控えめにし、有機物は完熟したものを使用する。
- 6 病株は、見つけ次第抜き取り、堆肥中で発酵させる。
- 7 感染防止には、ハサミを次亜塩素酸カルシウム等で消毒する。
- 8 排水不良地に多い。
- 9 高地温で発病が多くなるので、敷わらなどでマルチする。
- 10 養液栽培では、培養液の温度を20℃以下にする。また、pHは低めにしECは高めにする。
- 11 多発が予想される場合は、抵抗性台木の導入、高接ぎ、本ぼの土壌くん蒸等他の防除手段を併用することが望ましい。

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 土壌消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

かいよう病

(耕種的・物理的防除)

- 1 種子は無病株から採ったものを用い、55℃の湯に正確に25分間浸漬後すぐ冷却する(乾熱消毒と併用しない)。
※購入の際、温湯消毒が済んでいる場合は再消毒しない。
- 2 雨よけ栽培をする。
※雨よけ栽培は疫病、斑点細菌病等の軽減効果もある。
- 3 連作を努めて避け、連作の場合には苗床及び本ぼの土壌消毒をする([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 4 感染防止には、ハサミを次亜塩素酸カルシウムで消毒する。

(薬剤防除) ※ミニトマトを除く **農薬登録情報【トマト】**

- 1 発病ごく初期から薬剤を7～10日おきに数回散布する。

斑点細菌病

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 発病初期から数日おきに薬剤を散布する。

黄化えそ病

- ・[共通防除の章のトスポウイルス\(TSWV、INSV、IYSV、CSNV、MYSV\)による病害の防除の項](#)および[共通防除の章のアザミウマ類の防除の項](#)を参照するとともに、本項の[ミカンキイロアザミウマの防除](#)に基づき防除を行う。

黄化葉巻病(TYLCV)

黄化病(ToCV)

- ・[共通防除の章のコナジラミ類が媒介するウイルス\(TYLCV、ToCV、CCYV、BPYV\)による病害の防除の項](#)および[共通防除の章のコナジラミ類の防除の項](#)を参照するとともに、本項の[コナジラミ類の防除](#)に基づき防除を行う。

モザイク病(CMV)

(耕種的・物理的防除)

- 1 苗床は発芽直後から防虫ネットで被覆し、有翅虫の飛来を妨げる。
- ※CMV(キュウリモザイクウイルス)はアブラムシ類によって媒介される。

- 2 定植直前からシルバーポリマルチ(例：シルバーポリトウ、ムシコンなど)をする。
- 3 予備苗を作り、定植直後に発病したものは植替する。

(薬剤防除)

- 1 有翅アブラムシを防除する。特に抑制栽培では育苗期～定植後約1か月間防除剤を散布するか、効力持続期間の長い薬剤をできるだけ選ぶ。
- 2 アブラムシによって媒介されるため、本項の[アブラムシ類の防除](#)に基づき防除を行う。
- 3 周辺のあぶらな科、うり科、なす科などの作物にいるアブラムシもよく防除しておく。

モザイク病 (ToMV)

(耕種的・物理的防除)

- 1 抵抗性品種を栽培する(本項[トマトの品種と病害抵抗性の関係](#)を参照)。
 - 2 70℃、3日間の乾熱種子消毒をする。
- ※乾熱消毒をすると、発芽が1～2日遅れる。かいよう病防除のための温湯消毒と併用しない。
- 3 病株は抜き去るか、農作業をその日の最後に回し、それまで手を触れない。病株に触った手は石けんでよく洗う。
- ※ToMV(トマトモザイクウイルス)は、アブラムシで媒介されないが、種子、トマト栽培に使った古い支柱、針金、作業衣、農具、製品たばこなどが第1次伝染源となる。
- 4 たばこを吸った手は石けんでよく洗ってから作業にかかり、作業中はたばこを吸わない。
 - 5 収穫後、残さは残らず持ち去って処分する。また、消石灰を100～200kg/10a 施し、残根等の腐敗を促す。
 - 6 連作を1年以上避ける。

アブラムシ類

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 無寄生苗を使用する。
- 3 施設栽培においては、防虫ネット、紫外線除去フィルム、光反射資材によるマルチ、粘着シート等の活用により、施設内への侵入を防止する。ただし、受粉を目的としてマルハナバチを利用する場合には、紫外線除去フィルムの使用がマルハナバチの活動に影響を与えることに留意する。
- 4 有翅(し)虫の飛来を防止するため、光反射資材によるマルチ若しくはシルバーテープ又は風上方向に防風垣若しくは防風ネットを設置する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 生物農薬を活用した防除を行う。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 生物農薬は予防的に散布する。
- ※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
- ※アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。
- 2 気門封鎖剤を散布する。
 - 3 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。

オオタバコガ

・[共通防除の章のオオタバコガの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。
- 3 本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。
- 4 交信かく乱剤を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。
- 2 寄生果を見つけ次第、除去する。
- 3 食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- 4 新芽や花蕾には卵や若齢幼虫がいることが多い。摘心した側枝や蕾はほ場外に持ち出し処分する。
- 5 生物農薬を活用した防除を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。
- 7 蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたり、ほ場を冠水したりすることで、土中の蛹を死滅させる。

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。なお、中齢幼虫以降になると薬剤の防除効果が著しく低下してしまうので、早期発見、早期防除に重点を置く。

コナジラミ類

・ [共通防除の章のコナジラミ類の防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 連作する場合には、作と作の間に施設内に植物が存在しない期間を設け、コナジラミ類がリレーされることを避ける。
- 2 育苗期の防除に努め、コナジラミ類が寄生していない苗を定植する。鉢物など、栽培に関係のない植物は、施設内に持ち込まない。
- 3 寄生範囲が広いので、ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 4 夏期には露地においても発生が多くなるため、秋期より栽培(定植)の始まる作型では、施設内への成虫の侵入防止対策を徹底する。0.4mm目以下と同等の侵入防止効果を持つ防虫ネット(令和7年度試験研究成果普及情報)、紫外線除去フィルム、光反射資材によるマルチ等を活用する。ただし、受粉を目的としてマルハナバチを利用する場合には、紫外線除去フィルムの使用がマルハナバチの活動に影響を与えることに留意する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 特にタバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいので、予防策を基本とした総合防除を行う。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。
- 3 成虫密度の低下のため、粘着シート等を設置する。施設で発生予察のために黄色粘着テープを使用する場合は、侵入防止を徹底したうえで、施設の出入口や側窓付近に張り、定期的に交換する。
- 4 本圃において化学的防除を行う際は、早期発見、早期防除に重点を置き、薬剤効果に差があるので種の区別を的確に行う。
- 5 薬剤散布を行うに当たっては、葉裏に寄生している幼虫、蛹にも必ず薬剤がかかるよう丁寧に十分な量を散布する。さらに、薬剤が株全体によく到達するように下葉の処分を早期に行うなど工夫する。
- 6 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の殺虫効果の高い薬剤によるローテーション散布を行う(令和7年度試験研究成果普及情報)。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 7 施設栽培においては、栽培終了後に作物上に寄生したコナジラミの施設外への逃亡・拡散を防止するため、収穫後の残さはキルパーの処理([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項の「キルパーを用いた前作の古株枯死、病害虫まん延防止」](#)を参照)や施設の密閉処理により、枯死、乾燥させた上で処分する。**農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 生物農薬は予防的に散布する。
- ※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
- ※コナジラミ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。
- 2 気門封鎖剤を散布する。
 - 3 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。

ハスモンヨトウ

・ [共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 2 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 生物農薬を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 若齢幼虫のうちに、薬剤を散布する。

ハモグリバエ類

・ [共通防除の章のハモグリバエ類の防除の項](#)を参照する。

(物理的・耕種的防除)

- 1 薬剤防除のみでは防除が困難であるため、耕種的・物理的防除法も組み合わせて実施する。
- 2 成虫は黄色に強く誘引される性質があるので、黄色粘着板を用いて発生をモニタリングし、初期防除を徹底する。
- 3 成虫の侵入を防止するため、施設開口部には防虫ネットを設置する。また、紫外線カットフィルムの利用も有効である。
- 4 ほ場周辺部の雑草などにも寄生するので、特にキク科雑草を除去する等、ほ場衛生に努める。
- 5 収穫後の被害残さは発生源となるので、土中に埋設するか、ビニール被覆し熱処理を行う。
- 6 収穫終了後、地表の蛹の防除対策として、施設を密閉し土壌表面をビニール等で被覆することにより蒸し込む。水分のある植物がない状態で最低地温 40℃以上が数日続けば、蛹はほぼ死滅し、羽化成虫も 1 日で死滅する。

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 生物農薬は予防的に散布する。
※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
※ハモグリバエ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。
- 2 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。

ミカンキイロアザミウマ

・ [共通防除の章のアザミウマ類の防除の項](#)を参照する。

(物理的・耕種的防除)

- 1 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネットを展張する。育苗期の被覆も有効である。ほぼ完全に侵入を阻止するには、目合い 0.4mm 以下の防虫ネットが必要である。
- 2 ほ場周辺の雑草を除去する。
- 3 粘着テープにより成虫を誘殺する。本種は特に青色に誘引される。

(薬剤防除) **農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】**

- 1 生物農薬は予防的に散布する。
※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
※ミカンキイロアザミウマの生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。
- 2 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法の項](#)を参照する。

トマトサビダニ

(耕種的・物理的防除)

- 1 早期発見に努め、被害葉は摘葉し、土中に埋める等処分する。
- 2 高温、乾燥条件で発生が多い。
- 3 苗からの持ち込みに注意する。

(薬剤防除) [農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】](#)

- 1 発生初期から、薬剤を散布する。

ネコブセンチュウ類

・[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 抵抗性品種を利用する。
- 2 土壌還元消毒を行う([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

(薬剤防除) [農薬登録情報【トマト】・【ミニトマト】](#)

- 1 薬剤を定植前に土壌混和またはかん注する。

トマトの品種と病害抵抗性の関係

品 種	育 成 元	ToMV 抵抗 性 Tm-2 又は Tm-2 ^a	萎凋病			根 萎凋病	腐 褐 色 根腐病	青 枯病	かいよ う病	葉かび 病 Cf9	黄化葉巻病	
			レ-ス 1	レ-ス 2	レ-ス 3						IL	MIL
トマト	桃太郎グランデ	タキイ種苗	○	○		○		△		○		
	桃太郎ネクスト	タキイ種苗	○	○	○					○		
	桃太郎ピース	タキイ種苗	○	○	○	○				○	○	○
	桃太郎ホープ	タキイ種苗	○	○	○	○				○	○	○
	CFハウス桃太郎	タキイ種苗	○	○						○		
	CF桃太郎はるか	タキイ種苗	○	○		○				○		
	CF桃太郎ファイト	タキイ種苗	○	○	○	○		△		○		
	CF桃太郎ヨーク	タキイ種苗	○	○	○	○				○		
	かれん	サカタのタネ	○	○	○						○	○
	りんか409	サカタのタネ	○	○	○					○		
	麗月	サカタのタネ	○	○	○					○		
	麗妃	サカタのタネ	○	○	○					○	○	○
	麗容	サカタのタネ	○	○	○					○ ^{注2)}		
	ひなた	ヴィルモランみかど	○	○	○			△		○		
	ちばさんさん	千葉農総研	○	○								
	ミニ トマト	TY千果	タキイ種苗	○	○		○				○	○
千果99		タキイ種苗	○	○						○	○	
TY花鳥風月		ナント種苗	○	○	○					○ ^{注3)}	○	○
ラブリー藍		ヴィルモランみかど	○	○	○	○				○		
アイコ		サカタのタネ	○	○	○					○		
キャロルクイーン		サカタのタネ	○	○						○		
キャロル10		サカタのタネ	○	○						○		
キャロルスター		サカタのタネ	○	○		○				○		
オレンジキャロル		サカタのタネ	○			△						
サンチェリービューア	トキタ種苗	○	○						○			
台木	キングバリア	タキイ種苗	○	○	○	○		○	○			
	グリーンフォース	タキイ種苗	○	○	○	○	○	○				
	グリーンセーブ	タキイ種苗	○	○	○	○	○	○				
	グリーンガード	タキイ種苗	○	○	○	○	○	○				
	Bバリア ^{注1)}	タキイ種苗	○	○	○	○	○	○	○			
	アシスト ^{注1)}	サカタのタネ	○	○	○	○	○	○	○			
	グランシールド	サカタのタネ	○	○	○	○	○	○	○			
	フレンドシップ	サカタのタネ	○	○	○	○	○	○				
	バックアタック	サカタのタネ	○	○	○	○	○	○				
	マグネット	サカタのタネ	○	○	○	○	○	○				

注1) トマト葉かび病レース 4.11、レース 4.9.11 に抵抗性を持つ。

注2) メーカーカタログ標記で葉かび病に耐病性を持つ。

注3) メーカーカタログ標記でかいよう病に耐病性を持つ。